

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「あなたらしさ」を尊重し、希望のある暮らしを支えるサービスとして事業所独自の理念を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、棟内に理念を掲示し、朝のミーティング時の唱和と、日常的に話題にすることにより、理念を共有し、実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレット、入居案内時の説明文書に明示する他、利用者や家族に分かりやすい言葉で説明し、玄関、棟内に大きく掲示することで理解してもらえよう取り組んでいる。行事等通して理念を伝えている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地元の人達と、日常的に交流が図れるよう働きかけている。日頃から声を掛け合うことにより運動会の参加や、畑づくりの指導の協力を得ている。地域商店呼びかけし、水曜日・衣料店、土曜日・雑貨店が出張販売に来てくれている。行事等もデイサービスを通して参加している。(秋の茶会での様子・売店など)	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用方法等、毎月の定例会や勉強会や随時行われているカンファレンスの場で話し合いする事により、運営者、管理者、全職員が周知できている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、和やかな雰囲気づくりに努めている。包括支援センター、行政、同業職の方達からアドバイスをもらいながら、利用者・家族の意見も自由に発言できる場となり、サービス向上に繋がっている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で積極的に意見交換している。事故があった場合でも、速やかに連絡し、アドバイスをもらっている。課題の発生した場合は都度相談し方向性の指導を頂いている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、制度については、外部研修・勉強会を通して理解している。又、運営推進会議で話題とし行政と意見交換している。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定例会等機会を設け、資料を回覧し学んでいる。日常的に話題に出し、互いの行動や言動を話し合う事で、虐待防止に努めている。特に、言葉遣いに気をつけている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、利用者や家族から不安や疑問について、相談も受け付け、懇切丁寧に対応し、十分な理解を得た上で同意している。利用者の入院による退居の際は退院後の転居先の情報を集め家族に情報を提供し相談に応じている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日常的に意識的に会話する機会を設け、出された意見や苦情には事業所全体で、速やかに対応し、質の高いサービス提供に活かしている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の健康状態・受診状況・暮らしぶりについては、家族と密に連絡をとり口頭の他毎月メッセージと行事報告等掲載した泉の里だよりを送付している。金銭管理は出納帳に記している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内・外の苦情受け付け窓口について、契約時に十分に説明している。施設内に明示している。これまでに苦情はでていないが、意見や要望に関しては、運営に反映出来るよう取り組んでいる。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会、勉強会で意見交換を行っている。必要があれば都度話し合いの場を設け、意見や提案を運営に反映している。月1回の担当者からの介護計画の見直し・経管報告を必ず行っている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に合わせた人員の確保、時間の調整は必要に応じ都度行っている。又、職員も理解してくれ協力的である。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や配置換えの際には、詳細な引き継ぎを行える期間を十分に設ける等し、利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じた研修を受講している。介護用の文献、ビデオ専門書等を設置し、誰もが活用できるようにしている。研修に関しては年間の研修計画表を作成し管理している。		
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議や、グループホーム協会等の研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。包括を中心に地域の同業者との交流をもつよう取り組みをしている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に、運営者、管理者が職員の悩みを聞く体制をとっている。又、親睦会等により、話しやすい場を設けている。行事の際に着用するシンボルマーク入りのTシャツを作るなど職員が一体感を持って仕事が出来よう取り組みをしている。職員の意見を反映した休憩時間、場所を提供している。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者、職員と話す機会をつくり個々の状況を把握するように努めている。定例会・カンファレンスへの参加。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があれば、すぐ利用者、家族との面談を行っている。面談時には身体状態はもちろんだが、まずは相手の話に傾聴することで、希望やニーズの把握に努めている。それにより信頼関係を築いている。(居宅・包括よりの情報提供など)	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴することにより、何を必要としているのかを見極め、素速い対応を心掛けている。困難な件であっても、関係機関との連携を図りながら取り組んでいる。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の生活ペースに合わせたサービスになるよう、双方の意見を基に十分に話し合い、納得して頂いた上で、利用開始している。その都度相談している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の心に寄り添う事で喜怒哀楽を共感し理解するよう努めている。個々の得意とすることを見出し、発揮する場面をつくることにより、支え合う関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族は、日頃から情報交換を行い、共に悩み、考えながら利用者を支える取り組みをしている。誕生会・運動会など行事には家族の参加を実施している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	双方の事情や思いについては、十分な聞き取りを行い、理解に努めている。利用者との絆を大切にすることを心掛け、日常の様子を電話やメッセージでこまめに伝えている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人や場所についての把握に努め、墓参りや年賀状などで交流が継続できるよう支援している。個人の思想（宗教）を尊重し、定期的な集会に参加出来ている。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい利用者同士が自由に居室を行き来し、助け合いながら生活出来ている。機能訓練時の利用者同士の誘い合いは、支え合う良い機会となっている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院などにより退居となった場合でも次の受け入れ先が決まるまでの相談を受けている。又、入院時には家族にかわって必要な事をお世話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者が本人の思いや不安を聞き入れ寄り添う事で希望・意向の把握に努めている。利用者が自分の希望や意向を十分に伝える事が出来ない場合でも、家族の協力を得ながら、アセスメント、カンファレンスを繰り返し、本人本位の暮らしが出来るように努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のプライバシーに配慮しながら、家族・親類・友人から情報収集し、把握に努め「その人らしい暮らし」に活かしている。	
32	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人をよく観察し、一日の状態を生活記録に詳しく記録し、把握している。毎日のコミュニケーションを通し、本人の出来る事、理解力を把握し、少しの変化も見逃さないように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者、家族の意向を反映したものとしている。職員、ケアマネージャー、場合によっては運営者、看護師と十分話し合い自立支援に向け、無理のないように作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は気付きを大切に、利用者の状態変化に素速く反応し、必要に応じては家族の協力を得ながら介護計画の見直し（3ヶ月）の度に再アセスメントを行っている。担当者からの月1回のカンファレンスは計画の経過報告・見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に、日々の様子・状態変化・ケアの実践を具体的に記録している。カンファレンスシートに、ケアの実践の結果、職員の気づき等記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族のニーズに応じて、受診・外出の移送支援を柔軟に対応している。又、冠婚葬祭など職員の付き添いなどで参加している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方のボランティア・消防団の協力を得ている。町の文化センターで行われるいろいろなイベントには積極的に参加している。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じては、他のサービス利用の支援を行っていくが、現在利用希望はない。	○	運営推進会議などで他のサービスについての情報を収集し支援していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例で有る場合には、必要に応じて包括支援センターに相談し、協力体制を取っているが、現在、成年後見制度の利用はない。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	職員間、家族の情報をもとに、情報提供書（介護サマリー）を作成し、プライバシーに配慮しながら詳細に移行先への情報提供をしている。退居後も情報交換を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには、十分注意し業務している。本人・家族が望む、その人らしさを尊重して暮らしている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外食や、買い物でを本人が選ぶ場面づくりをしている。カンファレンスに参加して頂き、本人が納得できるプランを作成している。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・就寝時間・一日の過ごし方は、その日の本人の精神状態や体調にあわせ希望に添って支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好みで衣服を選んでおり、スカーフを巻いたりとおしゃれができる様支援している。又、理美容店に連絡・調整し、施設に出張に来てくれる。カットする際は一人一人好みに合わせ注文しながら行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
52	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
53	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
54	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
55	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、少ない金額であるが本人が管理している。又、自己管理が出来ない方も買い物の時に自分で支払出来るように支援している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じてショッピングをしている。ドライブや散歩の外出を、こちらから働きかけ、機会を作っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	事情により、家族が連れて行けない場合でも、職員が付き添い墓参りしている。毎年、小旅行として長距離の外出を企画している。今年度は黒石の津軽伝承工芸館へでかけました。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と年賀状や手紙のやりとりが出来ている。本人の希望に添って電話が掛けられるよう援助している。(公衆電話・子機など)		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、居室でゆっくり気兼ねなく過ごして頂けるよう声がけしている。帰り際には利用者と一緒に玄関で見送りしている。必要に応じ家族室も利用できる。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加や定例会で身体拘束について学び、身体拘束のないケアを実施しているが、やむを得ず行動を制限する場合に関しては、家族に十分説明し同意書を交わしている。実施した事はない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	カンファレンスでの他、日常的に職員間で話題に出し、一人一人のリスクや対応策を話し合っている。家族への報告・説明をしている。ストレスにならないよう見守りを重視した支援をしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の状態をよく観察しており小さな変化も見逃さず、すぐ看護師に報告する事で、早期対応できている。速やかに専門医に受診している。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の生活記録ファイルに、薬の説明書を挟んであり職員がいつでも確認出来るようにしている。薬の変更時は、申し送りノートに詳しく記録し、口頭での申し送りをを行い周知徹底している。服薬は都度手渡し確認している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表に記録し把握している。便秘の方には朝食前にヤクルトや牛乳を飲むなどして自然排泄を促している。必要に応じては、かかりつけ医に相談し本人の苦痛とならないように下剤調整し服用している。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、義歯洗浄・塩水でのうがいをやっている。夕食後のみポリデントに浸し、汚れ臭いに原因となるものを除去し清潔を保持している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立づくりをし、個々の食事・水分の摂取量を記録に残し栄養状態の把握に努めている。栄養士に相談できる体制になっており、助言を求めている。必要に応じて栄養補助食品を取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルが整備されており、見える場所に張り出されている。最新情報はその都度、口頭や資料回覧にて共有を図っている。外部研修にも参加している。毎年、利用者・スタッフ全員がインフルエンザの予防接種を受けている。施設内の消毒を徹底している。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	おしぼり・フキン・まな板を毎回漂白除菌している。冷蔵庫内は毎日チェックし新鮮な食材を使用している。定期的に掃除・消毒している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の周りには、季節の花が植えられており、楽しんで頂けるよう工夫している。玄関内は広々として明るく開放感があり安心して出入り出来るようになっている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有しているホール内は季節ごとに装飾を変え、季節感が味わえる工夫をしている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫をし団らんできるペースや一人になれるスペースを確保している。状況に応じて話し合い、より良い空間づくりを心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が馴染みとした家具・寝具を置 くスペースがありその人らしさを大切に空間 づくりを支援している。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	ホール内に、温・湿度計を設置し毎日チェックし 管理を行っている。料理・掃除・排泄後は、都度 換気している。水カーテン・加湿器の使用。光触 媒による消臭。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーとなっており、ホール内 廊下には手すりが設置してある。身体状況の変 化に応じて都度手すりを追加したりトイレのド アを外し、カーテンにする工夫をしている。家 具は個々にあわせ暮らしやすいよう配慮して いる。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱や失敗がある場合には、原因を話し合い、改 善に向けて素速く対応し、混乱を長引かせない ようにしている。表札など目印になるものを置 いている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	庭には「あずまや」があり大くの花や木を眺め ながらお茶を飲み、ゆっくりとした時間が過 ごせるようになっている。畑もあり植え付け から、収穫まで楽しんでいる。庭の遊歩道は 車椅子で安全に移動できるようになっている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・当グループホームでは、誕生会や季節ごとのイベントを大切にし、利用者さんの笑顔を引き出したいと考え取り組みしています。特に夏祭りでは、地域の子供達やボランティアの協力を得る事ができており、グループホームの行事の枠を超え、地域の行事として根付きつつあります。
- ・スタッフは利用者さんと家族とを結ぶパイプ役となりより良い関係が築けるような支援を心掛けています。
- ・地域の人達から旬の魚や野菜・山菜の差し入れも多く郷土料理から洋風と和風折衷を取り混ぜた献立にし、基本的に冷凍食品は使用しないことも特徴のひとつです。